

令和5年9月吉日

保護者 各位

上砂川町教育委員会  
教育長 飯山重信

## 新しい学校づくりアンケート調査のご依頼について

日頃より、皆様におかれましては、町教育行政にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当町では児童生徒数の減少及び校舎の老朽化も進む中、子どもたちが9年間を連続した環境における学びの中で、質の高い学習指導のもと将来に通用する学力を身につけ、生きる力を育むことを目的に、小中一貫教育制度（義務教育学校）の導入を検討しております。

まずは、小中一貫教育について保護者の皆様を対象にアンケート調査を実施・分析し、当町の学校の方向性について協議検討を重ねてまいりたいと存じます。

当町の子どもたちがより良い環境の下で、学校生活を送れるように、皆様のご協力とご理解をいただきながら取り組んでまいりますので、アンケート調査にご協力をお願い申し上げます。

### 上砂川町立小・中学校の現状と課題

中央小学校は、平成3年に校舎を新築、上砂川中学校は昭和48年に校舎の改築が行われ、その後大規模改修や耐震工事を行い現在に至っておりますが、経年による老朽の校舎は、年々修繕料等経費が増加しています。また、上砂川中学校は校舎及びグラウンドの一部が北海道の指定する土砂災害警戒区域にかかっており、好ましくない立地条件となっております。

児童生徒数についても減少傾向が続くことから、小中学校がひとつとなることで、異学年との交流から互いにコミュニケーション能力を身につけるとともに、学力の向上を図る取組が必要となります。

### ○小中一貫教育制度とは

小中一貫教育は、小中連携教育の一つです。文部科学省は、小中連携教育を「小、中学校が互いに交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育」と位置づけ、小中一貫教育を「小中学校が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編制し、体系的な教育を目指す教育」と定義付けています。小中一貫教育を行う学校は、「義務教育学校」と「小中一貫型小学校・中学校」の2つの方法に分けられます。

### ○義務教育学校とは

(例：歌志内学園、今後開校予定～砂川市、秩父別町、月形町など)

一人の校長の下、一つの教職員組織が一貫した教育課程を編制、実施する9年生の学校で教育を行う形態です。心身の発達に応じて義務教育としての普通教育を基礎的なものから一貫して施すことで、継続的な教育効果や、1年生から9年生までが行事などを通じて交流をすることにより、思いやりの心や社会性の育成に効果が期待されます。

### ○小中一貫型小学校・中学校とは

(例：沼田町、由仁町、雨竜町、長沼町で実施中)

すでにある小学校と中学校を組み合わせ、義務教育学校に準じた形で9年間の教育目標を設定し、教育課程を編制、実施する学校です。小学校は6年、中学校は3年の修業（卒業）でそれぞれ教職員組織（2人の校長2つの組織）があります。

※一般的な小・中学校 6年間、3年間それぞれに教育目標や教育課程を編制

○義務教育学校及び小中一貫型小学校・中学校のメリットとデメリット

	義務教育学校	小中一貫型小学校・中学校
メリット	・ 9年間を継続して一貫した教育が可能になる。	・ 同左
	・ 共同で教育活動ができる事で子どもたちの成長が期待できる。	・ 同左
	・ 上級生が下級生の世話をすることで両者共に社会性と精神的な発達が可能になる。	・ 同左
	・ 中一ギャップを解消する効果が期待できる。  ・ 教職員組織が一つであるため教員間の情報共有によって児童生徒へのきめ細やかな指導ができる。  ・ 学年段階の区切りを柔軟にできる。(6・3制→4・3・2制など)  ・ 多様な教員による専門的授業を行うことで授業の質が高まり学力向上が期待できる。	・ 同左  ・ 小学部の担任制から中学部の教科指導への変化が段階を踏み、今までと大きな変化がないため受け入れやすい。 ・ 教員相互の乗入授業で学力向上が期待できる。  ・ 小学校終了と中学校進級のメリハリがある。
デメリット	・ 小学校卒業と中学校入学がないため達成感や新鮮さが薄れる。  ・ 人間関係が固定化しやすい。	・ 小中教員間での共同活動に係る打ち合わせなどに施設間の利用調整、移動などに時間を要する。  ・ 同左